



松柏中学校アーカイブ通信 第15号 2024年9月2日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

松柏中、「てやてやウェーブ」優勝！歴史を刻む！

8月12日(月)に開かれた第37回てやてやウェーブ。中学生の部で松柏中学校の「LAST 松柏」が優勝しました。市内3校の統合を前にして、今の中学校で踊るのは最後だという思いで、どの中学校・チームも気合いが入っていました。チーム名の「LAST 松柏」ですが、正式にはその後ろに(松柏中学校全校生徒とOB)と付きます。今年度の3年生が、年度当初から掲げていた学級スローガン「LAST 松柏(サムライ)」に加え、全校生徒での参加を強く訴えた3年生リーダーの思い、そして保護者や関係者の方の参加の意味を込めています。あえて、()の部分も省略しないでパンフレットや広告に入れてほしいと、事前に商工会議所にお問い合わせしました。



当日、保護者の方はもちろん、市内数校で英語の授業を担当されているALTのサム先生も私たちの「連」に「てやてや松中Tシャツ」で参加。そして、「あの新聞広告を見て、『全校生徒とOB』と書かれていたから、同級会を中断してやってきた。」と、高田宗典前校長先生も参加しての、総勢89名でした。優勝後のインタビューでは、実行委員長であり、生徒会長の木下さんが、「地域に愛されている松柏中」をしっかりとアピールしました。「お盆で帰省していて見たけれど、松柏中は頑張ったなあ。」「松中すごい。」等、後日たくさんの方から祝福の言葉をいただきました。

てやてやウェーブの歴史に迫る！

歴史を刻んだ松柏中ですが、大事なことを忘れていました。「愛宕の5連覇を阻止する！」と気合いたっぷりの松柏中メンバーでしたが、**松柏中の優勝は何年ぶりだったのか**という点です。

そこでアーカイブです。この夏休み中、「閉校記念誌」の資料集めは佳境に達していました。昭和22年からスタートした松柏中の年度ごとの資料収集ですが、平成に入っていました。土日は市民図書館にこもり、当時の地元新聞をずっと追っていきました。もちろんその中で「てやてやウェーブ」の記事にも注目していました。そして押さえとして、商工会議所の資料です。分かったことを以下に紹介します。

- 1988(昭和63)年に「みなと夏祭りてやてや踊りフェスティバル」でスタート。松柏中も300人で参加しています。(生徒会担当は村上毅先生でした。現在の校長先生は剛です。)
- 1990(平成2)年の第3回を終えた時点で、名称を「てやてやウェーブ」に改称しました。
- 今回で37回目を数えますが、2015(平成27)年の第28回は雨天で中止、2020(令和2)年から2022(令和4)年までの第33~35回は新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止です。したがって、37回を数えていますが、実質は33回の開催です。
- このうち、第1回から第5回は、部門はなく、全体での表彰です。ちなみに第2回は愛宕中が優勝です。第6回から第10回までが小中学校部門となり(第8回は記録なし)、八代中が2回、愛宕中が1回優勝しています。江戸岡小も1回優勝しています。
- 1998(平成10)年の第11回大会から中学生の部が独立しましたが、この時の優勝が松柏中でした。11回目にして初優勝です。ちなみに翌年にも優勝し、連覇しています。
- 以来、今回で23回競ってきた中学生の部ですが、松柏中は2002(平成14)年の第15回大会で3回目の優勝を飾ったのが最後でした。23回の戦いの中で、愛宕が13回、八代が2回、青石が2回、

保内が2回の優勝に輝いています。そして**松柏中は今回、22年ぶり、4回目の優勝でした。**

8月3日、岐阜県で開かれた全国高等学校総合文化祭(総文祭)、放送部門の中のオーディオメッセージ部門(音声で報告する)で、松山東高校放送部がベスト4に入る優秀賞に輝きました。作品名は「ミュージックサイレン」。八幡浜市のミュージックサイレンがテーマでした。取材をしたいと顧問から連絡をいただいたのが3月中旬。声で「出演」する以上、いい加減なことは言えないと、春休み中には、過去の新聞を調べたり、地元マスコミや八幡神社の清家さんに尋ねたりしました。東高の部長・上岡さんが愛宕中出身、部員の松本君が八代中出身で、今回のテーマが決まったとか。4月14日にインタビュー録音を行ったのですが、40年以上前の愛宕中生時代、12時に流れたのはサイレンだったのか、「みかんの花咲く丘」だったのか。時報塔は今の場所だったのか、武道館の前だったのか。結構曖昧な部分があったのですが、その点ははっきりさせて証言をしました。松柏中関係者の方にもいろいろと証言をいただいているのですが、思い出すのは難しいですね。松柏中の歴史についても新たな発見がありました。これからもその「成果」を発信していきます。